

高知県森林組合連合会様

高知県高知市に事業所を持ち、県内の約6割の原木の取り扱いをしています。来年度稼働予定の木質バイオマス発電への共同出資や、CLT(板の層を各々直交させる方向で接着した厚型パネル)建築推進協議会の事務局にもなっています。原木安定供給への取り組みや、バイオマス発電所への品質・価格面で安定した出荷などについてお伺いしました。

高知おおとよ製材株式会社様

高知県長岡郡大豊町に事業所を持ち、民間・県・町・地域の協力を経て平成25年度に完成した大型製材工場です。平成28年度には原木消費量10万立米を目指しています。大きな設備を持つ工場で、地域資源の最大限の活用を目指しています。CLT工法の社員寮も見学させてもらい、外見は鉄骨造りの建物と見まがうばかりのものでした。

今回、高知県の林業視察に行き、原木供給側も川下のユーザーが何を求めているのかを常に考えていく必要があることを実感しました。また、林業・中山間地が積極的に活性化に取り組んでいる現状を広く知ってもらおう事も必要であると思います。視察に協力頂きました各事業所の皆様、ありがとうございました。

宮崎県の林業視察研修に参加しました

平成26年9月24～26日、日南町森林組合・鳥取県西部総合事務所の方と樹皮の有効活用に関する視察研修があり、NPO職員も参加しました。

宮崎県の本材生産額は1,962(千万円)(鳥取県:152千万円)(平成24年度 農林水産統計)と、日本有数の林業県です。日南町においても本材生産量の拡大を目指していますが、その際には大量のバーク(樹皮)が発生します。利活用しなければ廃棄物として処理されるものですが、宮崎県では畜産・農業と結びつけた処理を行う事で商品化に成功しています。今回は、バークの活用を焦点に企業を巡ってきました。



宮崎みどり製薬株式会社様

宮崎市内他に工場を持つ。原料供給部門として、中国みどり活性(株)を島根県奥出雲町に持っています。混合飼料(畜産家禽用・水産用・畜産哺乳用)・・・樹皮(広葉常緑樹)炭素末と木酢液から製造。家畜等の健康維持用。粗飼料(畜産用)・・・県産材の杉原木を使用。繊維量が豊富で粗飼料の使用量を減らすことができるとの事。

かつては製紙工場向けにチップを納めていた会社が、なぜ畜産飼料などの方向へ事業を拡大していったのか、代表取締役他皆様に丁寧に説明して頂きました。

有限会社エコロ様

日向市内に工場を持つ、針葉樹皮を原料としたバーク堆肥の製造会社。農業資材、法面緑化資材等として活用されています。ホームセンターなどに販路を持ち、安全安定した原料からくる製品の品質から高評価を受けているとの事。県森連にて発生したバークの処理・有効活用をしています。

今回、2社の視察に行き、森林資源を農業畜産の現場で活用し、地域の産業をさらに活発にする現状を見て来ました。周辺環境も違うので、全く同じ取り組みを日南にてすることは無理かも知れませんが、森林資源活用への課程や課題について、深く考えるきっかけとなりました。